



近隣の高等学校訪問
第4回



地域の定時制高校としてのニーズに応える 東京都立荻窪高等学校



荻窪高校の馬飼野光一(まかいの・こういち)校長、延味道都(えんみ・みちと)副校長に取材しました。

★概要

荻窪高校の前身は1935年に開校した東京市杉並高等家政女学校で、戦後東京都立荻窪高校に移行しましたが、2007年に全日制を廃止し、現在は定時制（朝昼夜の三部制単位制）・普通科のみの都立高校です。在学期間は4年が標準です。生徒数は508名（2022年4月時点）、クラス数は一学年8組×4年の合計32クラスです。荻窪駅南口から徒歩5分の市街地に立地しています。

★荻窪高校ってどんな学校？

荻窪高校の最大の特徴は昼夜間定時制（朝昼夜の三部制）です。全日制の高校は授業数が1日6時間で通常3年で卒業するのに対し、三部制の荻窪高校は授業数が1日4時間なので4年での卒業が標準となります。また所定の単位を卒業までに取得する単位制を採用しているので、年次毎の進級・落第はありません。

荻窪高校ではこれまで、他部の授業も選択することにより3年間で卒業することができます。今年度（2022年度）の入学生からは他部選択だけでは3年での卒業はできなくなります。校外学修により3年での卒業の道もありますが、4年での卒業が基本となります。これは、全生徒にじっくりと基礎基本を身に着けてもらうため、学び直しも含めた学習の機会を充実させるためです。この大きな制度変更には不安もありましたが、今年度の入学者数は昨年度並みとなりました。

学校生活の華となる部活動は、仲間との触れ合いの貴重な場となります。バドミントン部・卓球部など複数の部活動が盛んで、全国大会や都大会などで好成績を収めています。平日は夕方1時間の活動に制限されているので、土日に活動する部もあります。



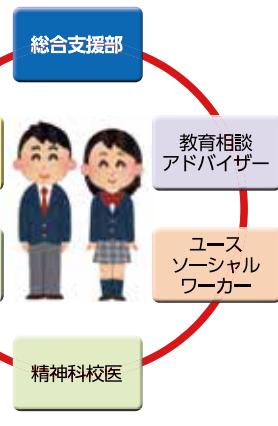
授業風景(選択科目)茶道



部活動 バドミントン部

★充実した支援体制、地域とのつながり

荻窪高校には全都でも珍しい「総合支援部」という組織があり、生徒への支援を行い、生徒自身では解決できない問題を含め、目の前の課題を処理しながら卒業を目指す支援をしています。スクールカウンセラー2名、教育相談アドバイザー1名、ユースソーシャルワーカー4名など充実した支援体制を敷き、発達障



害や外国ルーツの生徒の支援を行うなど、荻窪高校の先進的な取り組みが評価され注目されています。

生徒の中には学校近くの商店街で働いている人もおり、地域とのつながりが重要と考えています。「荻窪っていいな！」と思ってもらうためにも、昨年度から荻窪地域区民センター協議会の広報紙「わたしのおぎくぼ」の全校生徒への配布を開始し、教員全員にも読んでもらっています。生徒には地域センターなどのイベントに参加する機会を設けたいし、将来的には地域活動の参加による単位取得ができるようにしていきたいのです。

★校長先生の思い

荻窪高校には様々な生徒が入学してきます。支援を必要としている生徒も多くいます。そういう生徒達がきちんと学校に通えて、しっかり自分の進路を決めて卒業する。長い人生、高校でつまずかないよう、微力ですが、生徒の将来を見据え、今出来ることを実行していきたいと思います。

東京都立荻窪高等学校

住所:〒167-0051 杉並区荻窪5-7-20 電話:03-3392-6436
ホームページ:<http://www.ogikubo-h.metro.tokyo.jp>